

ドイツ 2022 年上半期の自転車及び電動自転車市場

ドイツ二輪車産業協会（ZIV）は、2022 年上半期の自転車及び電動自転車市場の概要について、プレスリリースを発表している。

それによると「2021 年はドイツだけでなく欧州自転車業界にとって記録的な年であった。2022 年もコロナ、ロシアによるウクライナ侵攻、インフレにもかかわらず、上半期のドイツ自転車業界は 2021 年の記録的なレベルをほぼ維持することができた」として、次のように伝えている。

生産

ZIV は 2022 年上半期の自転車生産台数を 58 万台と見込んでおり、2021 年上半期（60 万台）に対し 3%減となっている。

また、2022 年上半期の電動自転車生産台数は 80 万台と見込んでおり、2021 年上半期（81 万台）に対し 1%減となっている。

販売

自転車業界の販売は 2022 年上半期全体を通じて安定している。

高品質の自転車、特に電動自転車は、リース契約が前年に対し僅かながら好調であった。ドイツでの自転車販売は、インフレ率が上昇しているため、ここ数週間、特に低価格帯の買い控えが顕著になっており、アフターマーケットも消極的である。

商品

多くの自転車店が存続し、現在、市場には十分な商品がある。過去 2 年間と同様、あらゆる必要なパーツ類（例えば好みの色のフレームや部品など）が常にあるわけではないが、ホイールなども十分にある。

サプライチェーンの課題

現在、特に電動自転車の駆動系パーツ（バッテリー、ディスプレイ、チップ）の納入が困難な状況である。また、フレーム生産に関して、現在、多くの企業が中国から台湾だけでなくベトナム、カンボジアなど他の国に生産を移管しようとし

ており、ドイツのメーカーもこれらの国からフレームを調達しようとしているが、それにはまず、輸送に必要なコンテナを確保する必要がある。

輸送ルートは非常に緊張した状態にある。使用可能なコンテナの量が少なすぎるため、発送元の港と受入先の港が過密状態になっている。積み替え地点として非常に重要な中国の港はいつでも閉鎖可能とされている。さらに、欧州域内に入ってからの輸送も労働者不足に大変苦しんでいる。そうした状況について、ZIVは2023年末までの改善を期待していない。

ZIVの担当者は「ドイツ自転車業界の企業は、コロナの問題に挑み、ロシアのウクライナ侵攻によって困難が悪化している今でも素晴らしい業績を上げている。2021年は記録的な年となったが、2022年上半期もその水準をほぼ維持することができた」と述べている。

長期的に高い水準での政治的支援

2020年の連邦予算により、ドイツで最大の自転車道建設計画が開始された。この計画に特に重要な長期資金は、以前は2023年までしか確保されていなかったが、本年6月末以降に示された2023年予算案で、連邦運輸大臣は2028年までの最も重要な予算として長期的に必要な資金を確保している。

ZIVの担当者は「連邦運輸大臣は自転車利用促進を考えており、連邦政府の自転車道計画を継続していることを明らかにしている。そのため、大臣はより良い自転車道のために地方自治体への長期投資の枠組み作りに着手している。我々はそうした枠組みを緊急に必要としており、大臣の自転車利用への取り組みに非常に満足している」と述べている。

今後さらに未来は自転車に

自転車や電動自転車は、コロナ危機以降もますます人気が高まっている。特にこれまでのロシアからの化石燃料への大規模な依存は、自転車と電動自転車があるあらゆる旅客輸送手段の中で大変優れた代替手段であることを明らかにしている。ドイツ自転車業界は、将来の最も重要な交通手段を構築していることを認識しており、現在及び今後数か月で克服しなければならないあらゆる困難はあるものの、今後数年間は非常に楽観的である。

以上

出所：ドイツ二輪車産業協会